

上宮寺通信

第二十二号

心のゆとり

行楽地に向かう車の渋滞もない、空港や駅も閑散としている。不要不急の外出自粛が要請された日本の、いまだかつて見たことのないゴールデンウィークの光景でした。

その成果もあって、徐々に新型コロナウイルス感染者数は減少し、緊急事態宣言も解除され、自粛要請も少しずつ緩和されてきました。

ただ、まだワクチンも特效薬も開発されたわけではなく、いつ再び感染の波がやってくるのかわかりません。本当に安心できるのはまだまだ先のことであると思います。油断せずに、これからの日常を送る必要があります。

ます。

さて、この「油断」という言葉は、実は仏教由来の言葉というところをご存じでしょうか。「気を緩めること、注意を怠ること」という意味を持つ言葉ですが、「油を断つ」ということとどう関係があるのでしょうか。

『涅槃経(ねはんぎょう)』という經典のなかに、仏道を求める気構えとして、次のような話が出てきます。

「仏陀が説かれた教えを守り続けていくことは、中途半端な気持ちではできないことです。それはあたかも、王様から一人の家臣が油をいっぱい注いだ鉢を持って長い道のりを歩かされ、もし鉢を傾けて一滴でも油をこぼしてしまつたら、お前の

命を断ってしまうぞと命令されている状況と同じくらい気の抜けないことなのです」。

このことから気を緩めてしまうと油をこぼして命を断たれることとなる。気の緩み＝油断となったといわれるのです。

何か月にも及ぶ日常生活の制約から「コロナ疲れ」という言葉が聞かれます。

外出を避け、人と会うことを減らし、マスクや手洗いで予防に努める。感染しない、させない、そういう思いでここ数か月間、気を緩めることなく緊張状態で過ごしてきました。しかし終息が見えない。その不安もあり、みんな精神的な疲れが増しています。

そんなイライラのせいなの

か、油断(?)している人に対して攻撃をする人たちがいます。「自粛警察」なる言葉も生まれています。ウイルスよりも人間の狭い心のほうが怖く感じます。

油断の語源にあるような「油をこぼしたら(失敗したら)、お前の命を断つ」というようなことを言うのではなく、一緒に油をこぼさないように歩みましようというぐらいの心のゆとりを持ちたいものです。



◆行事案内

上宮寺の行事

上宮寺八事墓地・お盆法要

8月2日(日)

午前6時～9時

※墓地使用者の皆様には、管理費納入のお願いとともに法要のご案内を個別に送らせていただきます。

その他の行事につきましては、新型コロナウイルスの影響から未定となっております。



◆話題あれこれ

○秋の永代経のお説教の講師として、長らくご出講いただいていた一宮市養蓮寺前住職の中村薫師(上宮寺前坊守実弟)が、さる5月8日に逝去されました。今年も9月の永代経に出講を予定していただいていたのですが残念です。

【新刊書のご案内】
ひとくち法話

— 知っておきたい言葉たち —

中村薫著
法蔵館刊

頒価一三〇〇円(税別)

中村薫師の最後の著書です。中日新聞に連載された「今週の言葉」に加筆訂正してまとめられました。上宮寺にも若干数ありますのでご希望の方はお声をかけてください。

○学校が6月から始まる予定ですが、夏休みが短くなりそうです。また「新しい生活様式」ということで、これからも3密を極力避けた生活をしなくてはなりません。毎年たくさんのお子どもたちが参加してくれる「おつとめのけいこ」をどうしようかと、いま悩んでいます。

○お盆、秋の永代経、報恩講と、これからお寺の行事が続いていきますが、例年のように行うことができるのか。新型コロナウイルスの感染が再燃しないように祈るばかりです。

○仏事についてわからないことがありましたら、遠慮なくお寺にお尋ねください。

○新型コロナウイルスだけでなく、これからは熱中症の危険もあります。どうかお気をつけください。

【雑感】

夏の甲子園も中止となってしまいました。インターハイなど他の高校スポーツの大会も中止となっている状況から、大会開催は難しいだろうと思っていました。野球だけを特別視してはいけません。野球好きのボクとしては夏の楽しみがなくなって本当に残念です。選手たちの練習不足によるケガの心配、地方大会からの過密日程、集団での移動のリスク等々、開催するには相当高いハードルがあるのは想像できます。でも、これだけ収束してきて、人々も出かけるようになって…。個人的には無観客でもいいのでやってほしかったなあ。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547